

大学改革を利用した ICT 活用の推進

情報基盤センター長 蛭名 邦禎

私は、コンピュータに接続されたスピーカーから流れる声にふと目を覚ました。そういえば、インターネットで世界中の大学の講義を視聴する方法があると聞いて、いろいろ探しまわった挙句、興味ある講義を見つけ出していたような気がする。ディスプレイの中では、あごひげを蓄えた鋭い目つきの教授が、なにやら熱弁をふるっていた。

「皆さんは、IT の導入に伴い、以前と比較して、仕事ぶりをずいぶん変えたのではないのでしょうか....」

講義は英語のはずだが、最近のブラウザは、自動的に瞬間的に日本語にしてくれるのはありがたい。講義は続く。

「文章を書く、簡単な計算をする、手紙を出す、調べものをする、データを蓄積し整理する、こういう仕事のそれぞれを、コンピュータとインターネットを使ってやるようになってきました。しかし、そういう仕事をそれぞれ個別に、ただコンピュータに置き換えただけではないでしょう。もしそれだけだったとしたら、面倒な手間がかえって増えるばかりで、仕事の全体の効率が上がるわけではないからです。」

「もちろん、機器のハードウェアやソフトウェアの能力は高まり、これまでにはできなかったことができるようになります。あなたは、自分のパソコンを立ち上げて、ワープロソフトを使ってきれいにレイアウトされた文書を書き、それを高品質のレーザープリンターで打ち出し、美しく印刷された仕上げを手にすることができます。それを保存しておき、再び必要になれば、その紙をスキャナーで読み取り、文字認識ソフトを用いてテキスト化して、自分のパソコンにセーブすることができます。必要に応じて、再び印刷して、そこに記載されているデータを表計算ソフトに改めて打ち込んで、計算処理をして、図表を作り、それを印刷して眺めることができます。」

「でも、そんなふうな使い方をしたら、手間が増えるばかりで、かえって非効率です。それでは、IT の持つ潜在的な革命的な機能を手にすることはできません。IT の機能を十分に発揮するためには、いろいろなソフトウェア間でデータを連携させ、一度入力したデータは、なるべくそのまま使うようにすることが鍵となります。（もちろん、ファイル形式が共有できることが前提になります。）そのようにコンピュータを使うためには、従来、紙と鉛筆でやっていた仕事の手順そのものを、がらりと変える必要があったのではないのでしょうか。最初は、慣れないことゆえ気が重かったと思いますが、それをうまくこなせる同僚を見て、仕事ぶりで圧倒的な差をつけられないように、仕事の進め方自身を変えてきたのではないのでしょうか。」

なるほど。でも、そんなことは、言われなくてもわかっている。

「しかし、現在は、同僚の仕事ぶりに追いついたからといって安泰でいられる時代ではありません。それは、あなたの属する組織が、世界の中で、激しい国際競争にさらされているからです。たとえあなたが同僚を凌いで優越感にひたっているとしても、あなたの属する組織が沈んでしまっただけでは元も子もありません。」

「2000年代に入り、個人の仕事だけでなく、いろいろな業務システムがIT化されて来ました。それぞれの業務部門は、それぞれ予算を獲得して、それぞれの業務をこなすためのシステムを導入します。それによって、これまでにできなかったことが大いにできるようになり、喜ばしいことだと思うかもしれません。しかし、それだけでは、IT化がもつ潜在的な革命的な機能をみすみす捨てていることになります。あなたが、パソコンとインターネットの出現とともに、自分自身の仕事のやり方を変えて来たように、あなたの組織がITを導入する際に、部門間で業務の進め方を再調整しなかったとすると、その潜在的な革命的な機能をみすみす利用しない機会損失のゆえに、組織として沈んでいくことになります。」

「では、あなたの組織で、現代のITが十分に活用できるようにするにはどうしたらよいでしょうか。それぞれの業務がどのようなデータをどのように扱っているかを分析し、それを相互にどのように受け渡し合うのが効率的か、また、それをスムーズに行うには、どのようにフォーマットやコード体系を共通化したり統一すればよいか、時間をかけて徹底的に検討する必要があります。この見直しには、従来の業務の分掌が障害になる場合もあるでしょう。」

多少の手直しではどうしようもなければ、従来の業務実施体制も見直し、組織の構造自身を大幅に組み直すしかありません。つまり、competitiveなITの活用を実現するためには、組織改革が必要になるというわけです。」

ここだけどうも日本語への変換もれが一部あったようだ。でも、「IT活用のために組織改革」？なにやら主客転倒しているようにも思える。話は、現代の国際企業のことのようだが、考えてみると大学にも当てはまるような気もする。「ICT活用のために大学改革」か。でも、それほど苦労してまでICT活用を実現していかなければいけない我が大学のミッションとは何だろうか。と考えをめぐらしているうちに、私は再び眠りに落ちていた。

しばらくして目が覚めると、ブラウザの中の講義は終わっており、OSのアップデートのため、コンピュータが再起動していた。URLを控えておかなかったので、先ほどの講義がどこの大学のなんという講義だったかはわからない。